



# 被災から

# 奇跡の復活

東日本大震災で、大きな被害を受けた三陸鉄道。わずか5日後に、久慈〜陸中野田間の運行を再開し、被災地の住民に大きな勇気を与えました。復興の象徴として、さまざまな支援を受け、全線開通と奇跡の復活を遂げました。

**平** 成23年3月厳しい経営状況が続く三陸鉄道に最大の試練が訪れます。

3月11日14時46分ごろ、東日本大震災が発生。最大震度6弱の揺れと津波により、三陸鉄道は壊滅的ともいえる被害を受けました。幸い乗員・乗客に被害はなかったものの、橋や駅施設の流失など、被害箇所は317カ所。発災当初は、被害情報が分からず、望月正彦前社長が社員と一緒に、

津波の被害が想定される箇所を歩いて、状況把握に努めました。災害対策本部となっていた宮古駅に停車する電車の中で、望月社長は「落ち込んでいる暇はない。できる所から、一刻も早く列車を走らせる」と指示したそうです。

施設の点検・復旧や余震の可能性など、さまざまな問題はありましたが、社員や関係者の懸命の作業により、安全を確認。発災から

住民も駅舎の清掃や草取り、ペンキ塗り、除雪などを行い、三陸鉄道の復活を応援しました。

国の支援も決定し、11月3日には、田野畑〜陸中野田間の復旧工事の起工式を挙行。平成24年4月には、同区間の運転が再開され、被害が大きかった南リアス線も平成25年4月に盛〜吉浜間が運転再開しました。

平成26年4月6日、三陸鉄道は約3年1カ月ぶりに全線開通。当日、久慈駅には多くの市民や鉄道ファンが訪れ、万歳三唱で運行再開を喜び合いました。

わずか5日後の3月16日、久慈〜陸中野田間の運行を再開しました。20日には宮古〜田老間、29日には田老〜小本間(現岩泉小本)も運行を再開。3月中は無料で運行され、被災者やボランティアの足となりました。三陸鉄道の運行再開は、復興の象徴として、メディアで取り上げられ、全国・世界からたくさんの支援が送られました。6月には、自衛隊が南リアス線ののれき撤去を実施。クウエート国からも大きな支援が寄せられ、新車両購入や駅の復旧に充てられました。地域



線路にのれきが散乱する田老駅周辺  
(平成23年3月13日撮影)



橋が崩落し線路が分断された島越駅周辺  
(平成23年4月23日撮影)



トンネルまで続く線路が分断された島越駅周辺  
(平成23年3月13日撮影)



運行を再開し、住民に希望を与えた三陸鉄道  
(田老駅周辺:平成23年4月23日撮影)